

2015年(平成27年)5月25日(月曜日) (3)

バス・トラック運転者SAS検査

約4割が有所見者

40〜60代、肥満者に多い

健康推進で運輸業界の事故防止を図るNPO法人ヘルスケアネットワーク(OCHIS)はこの

2014年度 SAS 判定結果 (人、%) (OCHIS 調べ)

	全体	割合	バス	割合	トラック	割合
A判定	493	3.5	46	2.1	444	3.9
B判定	2,272	16.1	298	13.7	1,932	17.2
C判定	5,497	38.9	815	37.6	4,418	39.3
D判定	4,142	29.3	737	34.0	3,149	28.0
D+判定	1,472	10.4	242	11.2	1,080	9.6
R判定	263	1.9	30	1.4	228	2.0
合計	14,139	100.0	2,168	100.0	11,251	100.0

判定基準

A判定	異常なし
B判定	身体に以上のないレベルの酸素飽和度の若干変動
C判定	B判定基準に加え、強い眠気の場合は精密検査を
D判定	要精密検査
D+判定	重症者
G判定	その他の呼吸器疾患
R判定	測定不能(測定時間が短いなど)

健康推進で運輸業界の事故防止を図るNPO法人ヘルスケアネットワーク(OCHIS)は、14年度にバスやトラック運転者を対象に実施した睡眠時無呼吸症候群(SAS)検査の結果を明らかにした。これによると13年度に比べて要精密検査となる「D判定」、重症者となる「D+判定」が大幅に増加。受検者全体の約4割がSASの有所見者となったことが分かった。

OCHISは14年度に1万4139人の運転者らに対してパルスオキシメータによるSASの簡易スクリーニング検査を実施した。受検者数は前年度の7214人から大幅に増加。これは昨年3月に発生した北陸道での

高速バスの事故で、運転者がSASの疑いがあると報道されたことやSASを要因とする事故が頻発していることなどから、事業者が危機感を募らせたことと見られる。

受検者の増加とともに有所見率も上昇し、前年度までは全体の25%前後で推移してきたのが一気に39.7%にのぼった。事業者側がSASの可能性のある運転者を受検させたこともあるが、有所見率が約4割となったのはOCHISの過去10年の検査結果では初めて。

バスは男性2148人、女性20人が受検し、平均年齢はそれぞれ47.7歳、43.2歳。「D」「D+」は合計で979人となり、その比率は45.2%となった。またトラックは男性1万989人、女性262人で平均年齢は45.0歳、43.1歳だった。「D」「D+」は合計で4229人、37.6%で、バスの高比率が目

を引く。

有所見者の年齢は、ともに60歳代が最も多く、50歳代、40歳代と続く。また、体格指数(BMI)では各年代とも受検者の3割前後が肥満で、病気を招きやすい「肥満度第2度」も多く、SASの有所見者は肥満者が圧倒的に多数となった。さらに特徴的なのは、昼間の眠りに関する自覚症状からSASの可能性を調べた結果、「自覚症状がない」と答えたうち39.3%が有所見で、特に「D+」であっても10.1%が自己認識がない。

睡眠中に窒息状態に陥り、脳や体が眠れていないことから昼間の活動中に強い眠気に襲われたり、集中力が欠如するものがSAS。このため運転しながら一定時間に深い睡眠に陥って交通事故を起こす可能性が高い。

OCHISの作本貞子副理事長はこの結果について「肥満の解消で生活習慣病を改善することが大事。検査結果を放置すれば高血圧や動脈硬化などで運転中の健康起因事故となる脳卒中や心筋梗塞などを引き起こす。早期に検査とその対応を」と呼び掛けている。